

令和5年度 水仙の家 地域密着型通所介護

## 運営推進会議 議事録

日時：令和5年9月19日（火）13：00～14:15

場所：水仙の家 3階

出席者：計10名

地域密着型通所介護利用者 1名、同家族 1名

東淀川区社会福祉協議会地域福祉コーディネーター 1名

東淀川区北部地域包括支援センター主任介護支援専門員 1名

他事業所居宅介護支援専門員 1名

瑞光地域総合相談窓口（ランチ）社会福祉士 1名

水仙の家相談役、同主任

水仙の家地域密着型通所介護管理者、同介護職員

### 1. 開会あいさつ

水仙の家地域密着型通所介護（以下、デイと表記）職員より、

- ・地域住民や家族に対し、デイでどんなサービスを行っているかを知っていただく
- ・デイでの取り組みに対して意見をいただき社会の常識から乖離することを防ぐ
- ・いわゆる利用者抱え込みを防止する
- ・地域とのつながりや連携を模索する

といった目的のため、厚労省令の定めに基づき当会議を開催することの説明があった。

### 2. 自己紹介

今回出席の運営推進会議構成員が紹介された

### 3. 事業所の概要

配布資料（別添）とデイの様子を写したスライドをもとに、法人・施設概要、利用状況（利用者の要介護度別人数、月ごとの営業日数と延べ利用者数）、日々の活動状況について説明があった。

スライドでは、日々のレクリエーションや食事の様子だけではなく、誕生会での利用者の笑顔や夏祭りの様子、丹波の梅林で行われた青梅の収穫体験の様子も紹介された。デイ管理者からは、決まったプログラムを押し付けるのではなく一人ひとりの興味・関心に合わせた支援により生き生きと過ごしていただけることを大切にしていること、個別の創作レクであつても黙々と作業するというよりは、隣同士で教え合ったりおしゃべりしたりしながら

楽しく取り組まれていること等、補足説明があった。さらに、月5回程度ハンドエステを取り入れており、美容やリラククス効果だけでなく1対1のゆったりした時間の中でじっくりと話ができるという意味でも心待ちにしている利用者が多くおられるとの話があった。

また、職員間の情報共有やスキルアップをはかるために毎夕ミーティングを開いていること、施設全体の職員会議でもデイでの取り組みや利用者の課題を報告し、施設職員全員でその解決や支援の方向性を検討・共有できるよう努めていることが紹介された。

地域のボランティアや見学希望者、中学校の体験学習にも積極的に対応しているとのことだった。

#### 4. 意見交換（評価、助言、要望等）

##### ◎利用者家族：

家族を預けている立場としては、機嫌よう行って、機嫌よう帰ってきてくれて、「今日はこんなことあった」「こんなもんを食べた」と言うてくれたら言うことない。本人は月1回散髪をしてもらえるのも楽しみにしている。うちは地域でも古い方で、昔は寄りあいみたいな、年寄りが集まってお茶飲んだり食事会したりしてたけどそんな場が少なくなった。今はデイに来させてもらうことで、そういう知り合いに会えてしゃべって、コミュニケーションの場になっている。100歳になってもデイに行くときは恰好を気にするらしくて服の文句も言われるから大変やけども。若い男のスタッフやらがいると、孫みたいなもんか「あの子かわいらしいやろ」と言う。最初デイに行くまでは「お遊戯みたいなことするところ」と拒否が強かったのに、行ってみたら顔見知りと会えて、子どもにかえったみたいにニコニコと互いにハイタッチしていてびっくりした。今では自分で『お遊戯』と言ってた体操も「今日こんな体操やってきた」と報告してくれる。今でも新聞や雑誌を隅々まで読んでるし、私より本人の方が生きる意欲があるように感じる。

今、家の家事も本人の世話も全部私がやっている。食事を作るのは私が70歳を超えてからやらざるをえんようになって、メニューの幅も品数も限界があるし、それでもおいしいと言うて食べてくれるけれども、デイの日はいろいろと考えて作ってくれてるのを食べてると思うと安心がある。食事だけでなく生活全般で段々と世話がかかるようになってきていて、家にいると「水分摂ったか」とか細かいところも常に気にかけてながら家事をしたり自営の仕事をしたりしている現状があるので、週2回、デイに行っている間はそういうこともなく安心していられる。

##### ◎地域福祉コーディネーター：

ほんとにこの地域の人たちが通っているから、スライドを見て、最近出会わない懐かしい人、知っている人が登場したので元気にしてはるなあと安心した。私の実母もデイを利用しているが、童心にかえって楽しく参加することが元気でいられるコツなのかもしれない。

夏祭りのスライドも楽しそうだった。地域や区の行事でも似たことをやったことがあるので、今後何かお手伝いできることがあればさせてもらいたいと思った。

◎地域包括主任介護支援専門員：

利用者が楽しんで、職員や他の利用者に会って元気が出たりすることはとても大事だと思う。コロナの第九波さなかでもあり職員の苦労はあると思うが、感染対策をやっていたできつつ、地域の人が「水仙の家に行って良かったわ」と言われるような、地域の中のデイを目指してもらいたい。

◎介護支援専門員：

(スライドの) 丹波の緑の鮮やかさと、梅を収穫する男性利用者さんの充実した様子が印象的だった。また、ボランティア等を受け入れるというのは施設の雰囲気が良い、職員の精神的ゆとりがあるということだろうな、ということを感じた。

中学生の体験学習も、きっと介護に興味を持っている子が来てくれているのだろうと思うが、そういう子どもたちに良い体験をして帰ってもらうことで、将来介護の仕事をやってみようとなるかもしれない。

この小松地域でケアマネをするようになって、水仙の家デイは、最初、利用者が通うことを迷っている時にもきめ細やかな対応ですごいと思った。

◎その他

「ヒヤリハット」事例について、その都度小さなことでも書面に挙げて職員間で周知し、再発防止に向けて改善方向を話し合う習慣ができていることの報告があった。「ヒヤリハット」に関しては、次回の会議からは書面で報告する。